

船長の階段、船員の階段

text by Shinji Ishii
文いしいしんじ

2001年から2010年まで、三浦半島の港町に、古い一軒家を借りていた。マグロの遠洋漁業が華やかだったころは、帰港した若い船員たちが、次の航海まで時間を過ごす短期間の下宿屋だった。

木造の階段がふたつある。ひとつは雑魚寝用の、2階の大部屋につづく「船員さんの階段」、もうひとつは奥の締め切られた四畳半につづく「船長さんの階段」。押入のふすまは全部取りはらわれ、船員の荷物をならべる棚に改造されている。ヌード写真や映画雑誌の切り抜きがそこここに貼られたその棚に、僕は本をならべ、レコードをならべ、オーディオセットを置いた。

早朝に起き、ちょっと書き物をして、日が昇ると、宇宙一の魚屋「まるいち」で前日買ったイワシやアジを焼いた。窓をあけると目の前が北条湾。400メートルほど先の空中に、

そしてその七年後、僕はまたその家に戻ってきた。園子さん、ひとひ、そして僕の三人家族で。僕たちは成相さんご夫妻に出迎えられた。三崎の家は、bed & breakfast ichiとして、文字通り「うまれかわった」。僕のからだのなかの家の魂が子犬みたいに跳ねまわっている。僕は「かえってきた」。漁船が長い航海を終えて母港にかえるように。

1階は土間。2001年引越してきた夜に、うれしすぎて抱きついた柱はもとのままだ。船員の階段に、船長の階段。ichiは、1階にベッドふたつのひと部屋、2階にベッドふたつがふた部屋、ベッドみつつがひと部屋の、合計4組が泊まれるゲストハウスだ。

船長の階段をあがる。空間が、風通しのよさを生かしたまま、分割されている。すべて天井板はとりはずされ、そこにあらたな窓が穿たれ、たっぷりとした空気のなかに港の光が黄金色ににじんでいる。

棚！棚はそのままだ！へんなかたちのあがりかまちも。1階の部屋の上の、あの欄間は…。「あれは、2階の欄間をそのままもってきたんです」と成相さん。

城ヶ島大橋が、真っ赤な虹みたいに架かっている。正午前、この日はじめてまるいちへ行き、店主の宣さん、おかみさんの美智世さんと、今日の魚の相談をする。ムツ？カワハギ？キントキダイにしときなよ。アカザエビ？マンボウでもやってみつか？

お昼用に少しコムツを買い、1階の台所で煮付けて食べる。午後2時頃で、今日の書き物はおしまい。玄関でピーサンをつっかけ、シュノーケル道具を簡易リュックにいれ、自転車で磯をめざす。一日一個か二個のトコブシ、あるいはウニを「拾って」、いそいそとうちに帰ると、南西東、2階の窓をすべて開けはなつて風を入れ、大音響でジャズやレゲエや昔のロックをかけながら瓶ビールをあける。トコブシもウニもラッコみたいにわしわしと手づかみで食べた。夕方まで、船員の階段があがったところのソファで寝そべり、長い外国の小説や図鑑や詩を読んだ。

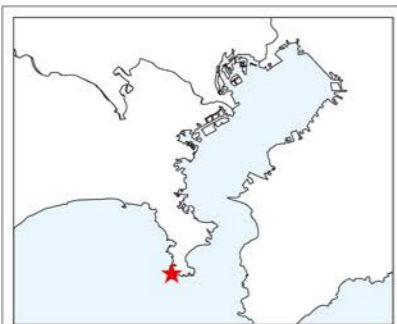
入り口の横に貼られた黒板は、はがした天井板をすまなくならべたもの。洗面台のコツプ置きと鏡は、僕が当時みずからとりつけたまんま。ソファを置いた、階段の上のくつろぎスペースは、そのサイズのまいまは、成相さんの管理人部屋になっている。トイレの戸もテーブル台も、別の場所ですりはずしたものを再利用。成相さんたちが、この家に本気で惚れ込み、「どこも捨てるどころなく」くらしいに大切に扱ってくれたことがしみじみと嬉しい。僕のなかの家も窓をばたばたと開け閉めして喜びをあらわしている。

自分が長い時間を過ごし、一度出ていった家に、ふたたび戻ってきて泊めてもらえる、

夕方、まるいちでキープしてある魚をとりいき、宣さんとビールを飲み、うちで夕食を料理。夜は日本酒を飲みながらレコードをかけ、眠くなったら布団を敷いて、船長用の個室で寝た。

2010年の夏、京都でこどもがうまれることになり、かわりに、三崎の家を引き払うことにした。家のなかをかき集めたら都合400キロの粗大ゴミが出た。最後の夜、コップに日本酒を注いで、棚に置き、これまでほんとうにありがとう、と頭をさげた。ここがなかったら僕はいまのように楽しく生きていなかった。三崎は、きみは、僕のほんとうの恩人、きみはほくのからだだ。ありがとう。夜の波が北条湾からスーと登ってきて僕を濡らした。土地の狭い三崎では、空き家は取り壊され、駐車場になる可能性が高い。でも僕のなかに永遠に、この家は建っている。僕は手を振り、三崎の港を出港した。

というのはふつうにある経験ではない。しかも、違和感ないどころか、すべてのものがていねいに置き直され、生かされた、安心感につつまれて。僕はこの家とともに「うまれかわった」。朝、窓を開けはなつと、北条湾のきらめく海面で、おかえり、というように、小魚が2度、3度、ぴちゃん、と跳ねた。



神奈川三浦市(三崎)	
国	: 日本
面積	: 32.05km ²
人口	: 45,257人
世帯数	: 17,748世帯
<small>※2015年5月1日現在 三浦市統計月報より</small>	
市の木	: クロマツ
市の花	: ユウハマ
市の鳥	: ウミウ



Profile
1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説「ぶらんこ乗り」「麦ふみクーツエ」「ポーの話」「みずうみ」「四とそれ以上の国」など、エッセイ「人生を救え!」(町田康共著)「熊にみえて熊じゃない」「遠い足の話」、絵本に「赤ずきん」(ほしよりこ絵)など多数。